（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州松本うらまちレジリエンス・プロジェクト
事業主体 （連絡先）	信州松本うらまちレジリエンス協議会 会長　林勇次　090-3413-2384
事業区分	（6）産業振興、雇用拡大に関する事業/商業の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,981,200 円（うち支援金：5,000,000 円）

事 業 内 容

かつて繁華街として栄えた松本うらまち地区(松本市城東周辺)において「テナントが増える⇄にぎわいが増える」の好循環を改めて創り出すことを目指し、まちづくり活動を総合的に展開。

１．「うらまち探検プロジェクト 2023」の開催
２．うらまち＋ひがしまち界隈の紹介ツールとなる
　　刊行物の発刊
３．「空き店舗見学ツアー」の開催
４-１．「演劇公演」の開催
４-２．「演劇ワークショップ&ステージ」の開催
５．うらまち情報の動画配信
６．空き店舗利用希望者への支援策の構築
７．３年間の総括と今後の持続可能なアクションプランの作成

【うらまち探検プロジェクト】

事 業 効 果

本事業の５つの目標に対応する事業効果を以下に示す。

目標①：令和３～５年度でうらまちに **13 店舗が開店**した。
目標②：空き店舗活用を促進するための活動メニューや支援ノウハウを蓄積された。
目標③：地元キャストを発掘・育成し、演劇公演を続けるチームを設立され、次年度の演劇公演が計画されている。
目標④：中心市街地のｲﾍﾞﾝﾄやうらまち周辺の店舗と連携した情報発信が進んだ。また、新聞、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・SNS を組み合わせたﾒﾃﾞｨｱﾐｯｸｽによる情報発信が充実した。
目標⑤：松本城天守を守った市川量造をﾓﾁｰﾌとした演劇の脚本が制作された。

【目標・ねらい】

①うらまちに新規３店舗以上を呼び込む
②空き店舗を活用する具体的な仕組みを構築する
③市民参加型の劇団をうらまちに残す
④うらまちを含む中心市街地の回遊行動を創出する
⑤うらまちのレガシーを後世に残していく

※自己評価【A】

【理由】
本事業が始まってから、うらまちに 13 店舗が新規開店し、うらまちを訪れる人や関わる人が増えており、「テナントが増える⇄にぎわいが増える」の好循環が生まれ始めていると考えられるため。

今後の取り組み

うらまちにおいて「テナントが増える⇄にぎわいが増える」の好循環は生まれ始めたところであり、この流れを確かなものとするためには、本事業を継続していくことが求められる。本協議会では、協議会メンバーや本事業の協力者とともに、元気づくり支援金による支援が終了した後の事業のあり方や体制について建設的な協議を重ねてきた。その結果、本事業の実行チームが中心となって NPO 法人を設立し、本協議会と連携しながら「うらまち探検プロジェクト」「演劇公演」「空き店舗の活用」等の事業を継続していくことになっている。

うらまちの再生に向けて、うらまちの地域資源（立地や歴史的な背景が持つまちのイメージ、うらまちに興味・関心を持つ人々のネットワーク、空き店舗等）をこれまで以上に活用、自己強化ループを育てながら、持続可能なまちづくりを継続していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある